

症例カンファレンス 月経前緊張症

東方医療振興財団

1

令和7年4月21日

えみクリニック東大前

菅沼栄

月経前緊張症(PMS)

性別：女性 44才 163 c m 55^{kg}。

主訴：月経前の不安緊張証

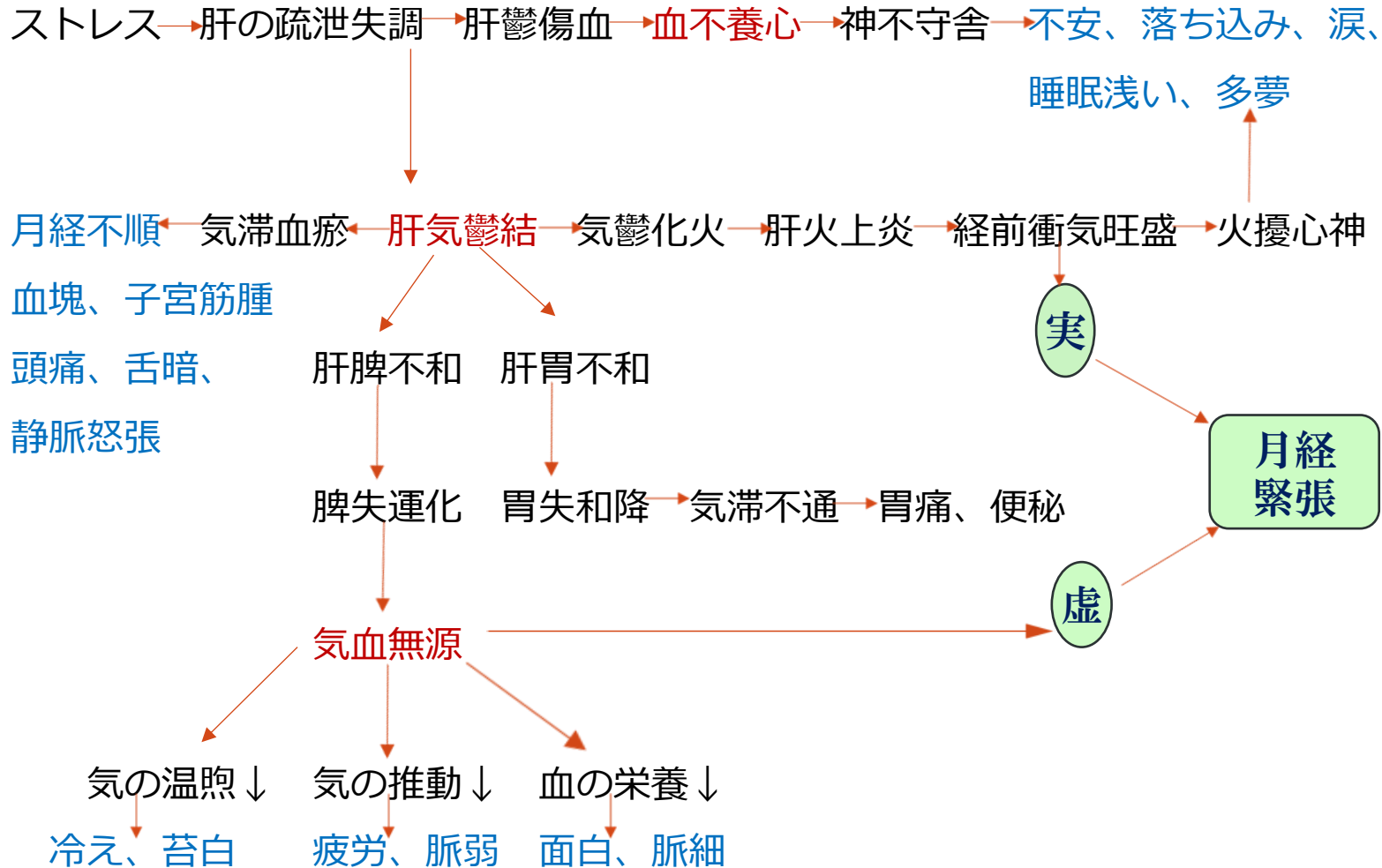
現病歴：5年前からストレス（育児などの家庭内問題）から、月経前一週間ぐらいに不安、落ち込み、涙が出る、頭痛、眩暈、肩凝り、耳鳴りが強く現れる。疲労感、体力も気力も低下する、顔色が白い、四肢冷える。睡眠浅い、（5時間）、夢が多い、食欲あるが時々胃痛をする。月経周期が不規則（月経前後不定期）、軽度の月経痛（時々鎮痛剤1錠）、月経の量は普通、血塊が多い。便秘気味（2日に1回）。

既病歴：子宮筋腫、左卵管切除、出産2回

望診：顔色暗、舌やや暗、舌下静脈怒張、苔白。

切診（脈診）：脈細弱

弁証論治分析



中医病名：経行情志異常（鬱証）

弁証：肝気鬱結 心脾両虚 神魂失養

論治：疏肝解鬱 養心健脾 安神鎮衝

参考：加味逍遙散 加味帰脾湯 抑肝散
（朝） 1 （夜） 1 （昼） 1

冬の間＋当帰四逆加呉茱萸生姜湯（朝） 1

胃痛時＋香蘇散（頓服）

便秘時＋桃核承気湯（夕食前頓服）

経過：月経周期が順調になった、経前の不定愁訴は軽減した、涙が出なくなった、便通出るようになった、軟便になることがあるから、桃核承気湯を中止、

弁証論治の要点

- 1、月経前緊張症は主に肝鬱による病証と考えられる、
疏肝理気、健脾清熱の「加味逍遙散」を使用する。
- 2、長期化する場合、虚証の存在を考え、補益気血剤の
「帰脾湯」を併用する。
- 3、排泄（排尿、排便）をよくする。
- 4、疼痛（頭痛、月経痛など）強い時は活血化瘀剤
「桂枝茯苓丸」を加える。

「通」＋「補」